

平成27年度ジャッジズトレーニング（第4回）開催報告

神奈川県横浜市 松下 卓生

今年も恒例の日がやってきた。今回で4回目を迎え、内容も充実しグレードの高い研修になってきたのではないかと自分では思っている。

今回の参加者は6名であった。まずは清水会員御自慢の山野草類コレクションを見せて頂きながら、実生栽培の方法などについて御教授頂いた。それから今年の花菖蒲実生畑を歩きながら、それぞれの花について形質に関することなど貴重な御話しを聞かせて頂き非常に勉強になった。御茶を頂きながら談笑し和やかな雰囲気の中、時間も気になりだしたことから本題に入ることとした。



協議中の様子



当日(5/31)の実生畑

今回は清水氏の作出品種から自分の気に入った花を選び、その花の形質を予め用意された特性調査表に記入する。次にその結果を発表し合って参加者全員で協議し、各形質に関する記録表現についての認識を共有すると

いう様な方法を試みた。

1. 参加者により対象品種の選択

(アイウエオ順で紹介)

〔飯島会員の選択花〕



鳩の宿



奥飛驒

〔小山会員の選択花〕



紅彩



袖の朝風

〔清水会員の選択花〕



棚田の花吹雪



五月小町



和やかな勉強会の様子

〔戸塚会員の選択花〕



渚の砂



男鹿の寒風



夕陽ヶ丘

〔松下会員の選択花〕



初扇



君津姫



春の夕暮



藤姫

注：「春の夕暮れ」はカメラの特性上、青味が強い画像となりましたが、実際は灰色がかかった青紫色の珍しい花色です。

〔山口会員の選択花〕



青根

2. 協議結果

一次頁の特性調査表を参照して下さい。ー

3. まとめ

今回の様に自分の気に入った花をよく観察し各部分を分類することで、その花をより深く知ることができる。そうすることによって新しく気づくことが出てくるだけでなく、他の事を全て忘れて花と対峙するという特別な時間を持つことで、日常と隔離された時間の楽しみ方を味わうことができる。

もともと花菖蒲はノハナショウブの色と形が最も環境に適応した、最も無駄のない美しい姿であったものを人間の判断で改良した結果、今日のように発達してきたものである。従ってどの品種にも実生から選別された理由があり、例えば何となく自分が気に入って選んだ品種ではなく、他人が選抜した品種の、例えばこの部分が優れているということを言葉で説明できるようになれば、今までよりももっと詳しくその花を知ることができるだろう。

では実際に、この花にどんな特徴があるのかを分析する上で、今回の様な特性調査表の活用は非常に有効である。更に自らが実生選抜を行う上で、客観的に多様な形質の組み合わせを考えることができるため、より発展した品種改良に取り組むことができる。

花を表面的に眺めるだけでなく、その花の最も特徴的な部分を十分理解した上で意識的に眺めることによって、花を「味わう」ことができ、より深く鑑賞することができる。以上の様なことが今回の勉強会で感じたことであり、今後も忘れない様に気を付けなければと改めて感じた。

花菖蒲特性調査表 (2015. 5. 31 ジャッジズトレーニング)

品種名	タイプ	花 容			外花被		内花被		花柱支		葉 片	
		花型	開張度	花径	色彩・配色	形・肌理	色彩・配色	形・肌理	色彩・配色	形・肌理	色彩・配色	形・肌理
鳩の宿	伊/肥	三英	垂咲	大	薄紫藤色	縮緬	ピンク含む藤色		淡藤色		藤色	大型
奥飛驒	肥	六英		中	瑠璃紺				薄紫	立芯	瑠璃紺	
紅彩	肥	三英	垂咲	中	ピンク地紅筋	砂子	濃ピンク	丸弁	赤ピンク		赤ピンク	
袖の朝風	江	三英	半垂	中	濃紫地紫筋	砂子	濃紅紫色白覆輪		薄紫		濃紅紫色白覆輪	
棚田花吹雪	江	三英	垂咲	中	白地ピンク緋		白地ピンク緋		白地ピンク緋		濃ピンク	
五月小町	江	三英	垂咲	中	白地青紫脈	丸弁	濃紅紫白糸覆輪		白地紫砂子		白地紫砂子と脈	
渚の砂	江	六英	平咲	中	白地青紫覆輪	厚弁			白地青紫覆輪		青紫覆輪	若干クモ手
男鹿の寒風	江	三英	垂咲	大	紫地白絞白覆輪	樋弁	紫地白糸覆輪		白地紫覆輪		紫地白絞	
夕陽ヶ丘	肥	六英	垂咲	大	赤紫地白小絞	波状弁			白地紅紫覆輪		赤紫地白小絞	
初扇	肥	三英	垂咲	中	赤紫地白筋	波状弁	白地紫糸覆輪	さじ耳	白地紫覆輪		白地紫太覆輪	立芯
君津姫	肥	六英	垂咲	中	淡ピンク地 弁元濃ピンク	大波状弁			白地ピンク覆輪	多芯	ピンク	立芯
春の夕暮	江	三英	平咲	中	灰紫		灰紫		灰紫		灰紫	
藤姫	江	六英	平咲	中	赤味の明藤色	波状弁			赤味のある藤色		赤味の明藤色	立芯
青根	江	六英	平咲	中	薄青紫地白筋				白地薄青紫覆輪		薄青紫	

平成27年度 第2回花菖蒲園栽培管理研究会報告

研究会事務局 飯島 瑛雄

昨年は当協会会員中心に開催しましたが、今年度は会員以外で花菖蒲園の栽培管理に従事しておられる方々や管理者を中心に本年1月23日(金)～24日(土)の2日間に亘り神奈川県立フラワーセンター大船植物園にて開催しました。

昨年2月の研究会は近年にない大雪に見舞われ参加者された方々にはたいへんな目に遭わせてしまいましたので、今回は1月の開催としました。幸運にも好天に恵まれ、昨今悩みの疫病、病害対策を中心に花菖蒲園経営の一助となればと企画されとても良い2日間になりました。

花菖蒲疫病の見分け方と防除対策、花菖蒲園の栽培管理、花菖蒲の病害防除と農薬の使用、それに質疑応答という構成で、協会顧問の雨宮千葉大名誉教授、元佐原水生植物園園長 香取様、協会理事の田邊様にそれぞれ得意分野をご

担当いただきました。質疑応答時にはとても活発な意見交換や質疑がおこなわれました。小生など趣味で栽培するのと違い菖蒲園に花を観に



盆養づくり (促成栽培)